弘前大学医学部附属病院

2027［看護職員募集案内］

Hirosaki
University
Hospital

最先端の医療と、確かな知識技術で心のこもった看護を目指します。

患者さん・ご家族によりよい看護を

患者さん・ご家族に、命と暮らしを支え行き届いた看護を提供するために、一人ひとりが看護を探究・創造し、専門性を高めることが望まれます。看護部では看護職員が365日24時間使用できる研修室を設置している他、いつでも自主的に学習できる動画のeラーニングなど教育支援環境も整えています。習得した知識・技術を看護部の基本方針にある「優しさと思いやりのある看護」として患者さん・ご家族に提供していただきたいと思っています。あなたの「優しさと思いやり」は、目の前の患者さん・ご家族にとって具体的にはどのようなことでしょうか？常に自分自身に問いかけ、真摯に向き合い、患者さん・ご家族の個別性に沿ったよりよい看護を模索し最適な看護を提供できるよう、一緒に歩いていきましょう。

Hirosaki University School of Medicine&Hospital Nursing Department

理念と基本方針

Philosophy

看護部の理念は、弘前大学医学部附属病院の使命に基づき、包括的かつ継続的な看護を提供することである。
また、変革する社会情勢を敏感に受け止め、地域における看護活動の拠点として、人々の健康と福祉に貢献することである。

1.患者と相互理解をはかり、優しさと思いやりのある看護を提供する
2.患者の安全を守り、快適な生活環境を提供する
3.自己啓発し、研究・研修を行い、看護の専門性を高める

本院には35の診療科と26の中央診療施設が整備され、
全身の多様な疾患に対応できる体制を整えています。
地域医療の最後の砦である特定機能病院として
高度で先進的な医療を地域社会に提供することは
重要な使命と考えています。多診療科連携による高難度手術
ハイブリッド手術室を活用した心血管・脳血管治療、
小児血液腫瘍治療、ロボット手術、臓器移植、
スポーツ医学などは我が国の先進的施設の一つです。
高度救命救急センターは北東北の救急医療の
最後の砦としてのみならず
東北・北海道における被ばく医療拠点としての機能も有しています。

病院の特徴

- 病床数　636床
- 高度被ばく医療支援センター・原子力災害医療・総合センター・災害拠点病院
- がんゲノム医療中核拠点病院・地域がん診療連携拠点病院・肝疾患診療連携拠点病院
- エイズ治療拠点病院・指定小児慢性特定疾病医療機関
- 都道府県アレルギー疾患医療拠点病院

地域を支える・つながる

総合患者支援センター

様々な職種が地域の医療・介護福祉施設と連携し、患者さんの退院支援、在宅療養支援を行っています。肝疾患診療相談支援部門、遺伝カウンセリング部門、脳卒中・心臓病等総合支援部門など6つの部門で構成されています。

のうしんセンター

令和5年には、「青森県・弘前大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター」が開設されました。青森県と密接に連携し、脳卒中や心臓病を有している患者さんやご家族が抱えている不安や困りごとについて、医師や看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど、専門スタッフによる相談支援を行います。青森県が掲げる「循環器病による年齢調整死亡率の減少」と「健康寿命の延伸」に向けて取り組んでいます。

次世代への取り組み

放射線治療装置の新規導入

令和6年3月、東北・北海道地区大学病院初となる最新型の放射線治療装置（Radixact X⊠）を導入しました。
本装置は強度変調回転照射、定位照射、動態追尾照射、画像誘導放射線治療などが可能なハイスペックな放射線治療装置です。

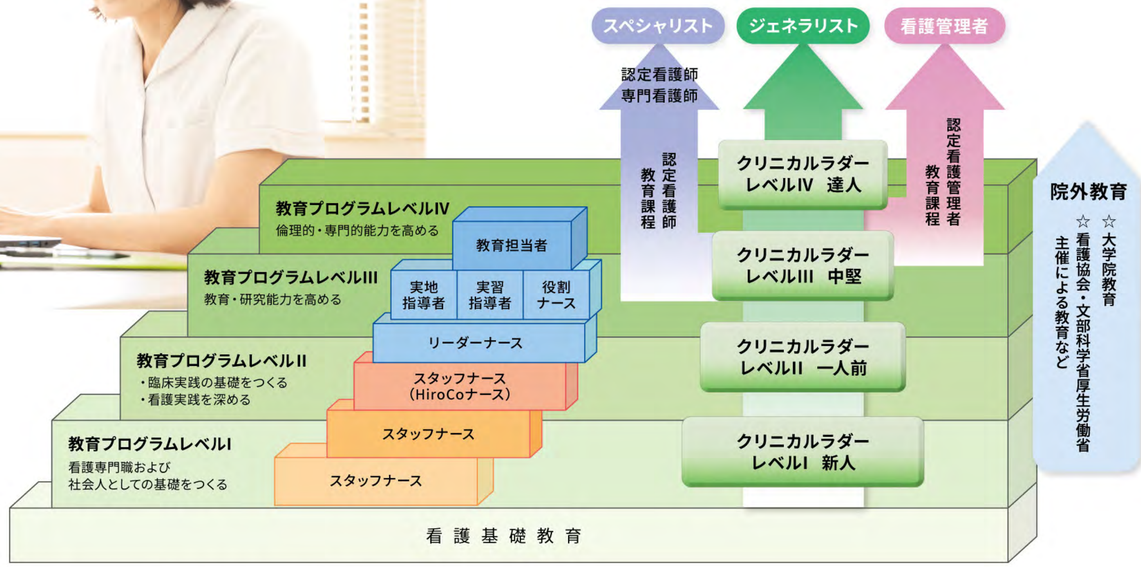
内視鏡室

ブルーライトは全内視鏡室に設置されており、内視鏡室内を「青色光」で照らすことにより、内視鏡検査でのモニターに映る「赤色」を認識しやすくなり、内視鏡画像の視認性向上に貢献しています。
また、部屋全体を青色にすることで内視鏡施行医の集中力を高めるとともに、患者さんをリラックスさせるなどのメリットがあるとされております。

01 教育方針
Educational policy

人間性と専門性豊かな看護職を育てる。

1. 専門的・倫理的な実践能力の向上を図る
2. 相手を尊重・擁護し、信頼される看護職を育てる
3. 確かな知識・技術と感性を統合した看護を提供できる能力を養う
4. 成果を考え行動できる看護職を育てる
5. 主体性を持ち、自己啓発できる看護職を育てる



弘前大学医学部附属病院看護部 キャリアパス

めざす看護 看護部の理念

LEVEL1	LEVEL2	LEVEL3	LEVEL4
看護専門職および社会人としての基礎をつくる	臨床看護実践の基礎をつくる・看護実践を深める	教育・研究能力を高める	倫理的・専門的能力を高める

教育プログラムの枠組み

5つの領域を枠組みとして、段階的・系統的に学習できるよう教育計画を構成しています。

5つの領域

教育方法の形態（しくみ）

院内教育を効果的に実施するため、さまざまな教育方法を組み合わせて行います。

- 分散教育（OJT）
- 自己学習
- 集合教育
- 組織活動 / 配置換え / 実地研修

フィジカルアセスメント（レベルII）

卒後2年目看護職員を対象に行われる看護形態機能学の一環として取り入れている。日常生活行動の視点からヘルスアセスメントを学び、早期回復に向けた看護援助方法を実施できる能力を養うことを目的としている。「現場で活用できるフィジカルアセスメントのコツを学ぶ」をテーマに、意識レベル/胸部・腹部/瞳孔/MMTの4項目について、シミュレーター研修を実施している。

がん看護実践者育成研修（レベルIII）

がん看護診療拠点病院に勤務する中堅看護師が求められる役割を認識し、根拠に基づいてがん患者とその家族の看護問題を明確にできることを目的としている。
基礎編からステップ編へ、がん看護を系統的に学ぶことができる。専門看護師・認定看護師が主体となり、薬剤師や管理栄養士など各専門性を活かし充実した講義や事例検討会が開催されている。

03 HiroCoナースを目指して
Aiming to be a HiroCo-nurse

1年目
看護専門職としての基本的な知識・技術・態度を身につけよう。

- 基本的な看護技術研修
- プリセプティ研修

組織人・社会人としての役割を認識して行動できるようになりましょう。日常ケアに必要な基本的知識を活用して看護実践ができ、看護過程を理解して受持ち患者のケア計画と実践ができるようになりましょう。

2年目
自分の看護について考えよう。

- 診療の補助業務技術研修（検査について、静脈注射）
- 看護実践の技術研修
  （看護形態機能学を活用したヘルスアセスメント）
- 看護過程研修（事例検討）
- 看護倫理研修

部署特有の看護技術が確実にできるよう、看護過程を展開し患者さんのケアを実践・評価できるよう、また、患者の人権について、自分の看護について考えることができるようになりましょう。

3年目
HiroCoナースを目指して。

- 看護過程研修（クリティカルシンキングと看護診断）
- 看護研究研修（エビデンスリサーチ）

看護過程の特にアセスメント能力を高め適切な看護診断ができるよう、また日頃の看護実践を振り返り問題解決として看護研究に取り組めるようになりましょう。

HiroCo（ヒロコ）ナースプラン

弘前大学
Competentナース育成プラン

弘前大学Competentナース育成プラン（HiroCoナースプラン）は、臨床看護の基盤を作るため、看護学生から新人そして一人前の看護職員となるためのシームレスな教育システムを構築し、看護実践能力および教育力の育成・向上を図ることを目的としています。

看護部内に弘前大学看護職教育キャリア支援センターを設置し、事業の総括を行なっています。

HiroCoナースとは、「3年程度の臨床経験を積み、高い倫理性を持ち、対象者の健康と生活を支えることのできる一人前の看護師」です。

MESSAGE 先輩看護師からのメッセージ

学んだことをすぐに仕事に生かすことができるため、自分にとって幸せな環境
2021年入職

学生の時に当院で実習を行い、教育制度が整っていること、大学附属病院であることから自分の興味のある分野を学びながら仕事ができる環境に魅力を感じ、当院への入職を希望しました。
師長さんを始め、スタッフの皆さんからの支えがあり、現在は大学院に通いながら仕事をすることができています。講義や研究を通して学んだことをすぐに仕事に生かすことができるため、自分にとって幸せな環境だと思います。仕事と学業を両立することは大変ですが当院はリフレッシュ休暇制度もあり、休みの日は家でゆっくり過ごしたり、旅行したりと充実した日々を過ごせています。
また、私が働く病棟には難病の患者さんが多く入院しています。病気の受け入れを支援すること、患者さんや家族と一緒になって今後の人生をどのように過ごしていきたいか考える場面が多いです。病気を受け入れ、住み慣れた家や家族と共に過ごしている患者さんを見ると、看護師をしていてよかったなとやりがいを感じています。

他職種で連携し患者の意向に沿った意思決定支援を行い、患者さんの感謝の言葉や笑顔にやりがいを感じています
2025年入職

私は地元での就職を考えており、県内唯一の特定機能病院である当院でより高度で専門的な医療の知識・技術を身につけることができると思い入職を希望しました。入職当初は看護や疾患の知識・技術に対し初めてのことで不安がありました。しかし、当院は集合研修で手技を根拠づけて学べる事やプリセプターシップ制が設けられているなど教育体制がとても充実しています。実際に病棟では、困ったときやわからないことはすぐに相談できる環境が整っています。看護ケアでは先輩方が自立して適切なケアが行えるまで丁寧に指導してくださるため、安心して看護業務に取り組むことができ着実なスキルにつながっています。学ぶことが多く忙しい日々ですが、他職種で連携し患者の意向に沿った意思決定支援を行い、患者さんの感謝の言葉や笑顔にやりがいを感じています。今後も知識を深め、よりよい看護の提供を目指し努力を続けたいと考えています。

患者を統合的にアセスメントする能力や重症患者を恐れないという度胸を身につけられる
2025年入職

私は医療職への憧れと誰かの役に立つ仕事がしたいという思いから看護師を目指し、地元の地域医療に貢献しながらも、高度な医療を学ぶことができると考えて大学病院への入職を決めました。ICUには様々な疾患や幅広い年齢層の患者、人工呼吸や透析管理の必要な患者など毎日重症患者が入室してきます。命に直結する処置やケアが多いため緊張感はありますが、重症患者が少しずつ回復して、笑顔で病棟へ戻る姿を見ると看護のやりがいを感じます。ICUでは、医師や経験豊富な看護師、薬剤師、臨床工学技士が近くにいるため、分からないことをすぐに確認できるという安心感があります。覚えることは多いですが、患者を統合的にアセスメントする能力や重症患者を恐れないという度胸を身につけられることが魅力的な部署だと思います。私はICUの同期入職が2名おり、仕事終わりに一緒に食事をしたり、今日経験したことや悩みを話すことでリフレッシュしています。一緒に入職した仲間の大切さ実感する毎日です。

看護師として必要とされる実践能力などをしっかり学び、経験と知識を得ることができ、成長できる環境が充実しています
看護師長・感染管理認定看護師

私は、これまで20数年間、クリティカル領域を中心に数々の部署において、多くの経験と知識を得て、現在は感染管理認定看護師、看護師長として院内外の感染対策を行う部署で働いています。新型コロナウイルス感染症の流行時には、院内の安全を守るため、寝る間も惜しんで、日々変わる対応等の情勢を常にアップデートし、未曽有の危機を乗り越えました。
看護師として将来のなりたい自分やvisionを見据えていくためには、多くの経験と知識を得る必要があると思います。当院は、シームレスな教育システムが構築されており、看護師として必要とされる実践能力などをしっかり学び、経験と知識を得ることができ、成長できる環境が充実しています。
私が入職した頃には数名しかいなかった男性看護師は、今や50名前後となり、様々な分野において活躍が出来るようになりました。無限大に広がる可能性を秘めた皆さんと働ける日を楽しみにしています！

04 教育環境
Educational environment

先輩看護師の技術に触れる機会や豊富な看護関連書籍を備えて、自分を高めていきたいという気持ちにしっかり応えます。
また、専任担当者を配置し、悩みや不安を解消するためのサポートを行っています。
一人ひとりの看護職員が成長し、自らがキャリアアップするための充実した環境が整っています。

研修室

さまざまな院内教育に活用されています。
技術研修では、教育委員や先輩看護師がインストラクターや講師として指導に当たります。先輩のEBNに基づいた看護に触れる機会となっています。

図書室

24時間利用可能な図書室。看護関連書籍に加え、看護専門雑誌20誌を常備しています。
またインターネット閲覧もでき、自分の学びたいこと、知りたいことが、ここに来れば、いつでも見つけることができます。

弘前大学看護職 教育キャリア支援センター

看護職の教育・キャリア支援を統括し、新人そして一人前の看護職となるための教育システムを構築し、看護実践能力および教育力の育成・向上をめざしています。新人看護師に対しては、専任担当者を配置し、演習のサポートや相談にのっています。

メディカルスタッフ研修室

医師・看護師およびその他医療従事者の医療技術の習得および向上を目的に、病院内に設置された共通利用施設です。最新の医療機器や教育機器を整備し、技術の習得や実践的で多様なトレーニングが行われます。

学習支援

看護技術を確認・習得するためのオンラインツールである「ナーシング・スキル」を導入しています。Webで管理され、スマートフォンやタブレット等の携帯端末からでも学習できる環境が整っています。
コンテンツをカスタマイズし、当院の「看護手順」として整備しています。
動画・画像で学習することで、手技のイメージをすることができます。

ナーシング・スキルの画面の一例

05 看護部の概要
Working system

看護配置	特定機能病院入院基本料（一般病棟）　7対1 特定機能病院入院基本料（精神病棟）　13対1
看護方式	固定チーム継続受け持ち方式

勤務体制	2交代制（13時間・16時間）
労働時間	平均 週38時間45分（1日7時間45分）

2交代（13時間夜勤）

2交代（16時間夜勤）

3交代

06 スペシャリスト
Specialists

各分野で専門性を発揮して活躍しています。

専門・認定看護師 特定行為研修修了者（令和7年12月現在）

専門看護師 …… 3名
- 小児看護 …… 1名
- 放射線看護 …… 1名
- 急性・重症患者看護 …… 1名

認定看護師 …… 21名
- がん化学療法 …… 2名
- がん放射線療法看護 …… 1名
- 感染管理 …… 3名
- 緩和ケア …… 2名
- 皮膚・排泄ケア …… 1名
- 集中ケア …… 2名
- 認知症看護 …… 1名
- 不妊症看護 …… 1名
- 慢性心不全看護 …… 1名
- 糖尿病看護 …… 2名
- 救急看護 …… 2名
- 脳卒中リハビリテーション看護 1名
- 手術看護 …… 2名

特定行為研修修了者 …… 3名

INTERVIEW

小児看護専門看護師

子どもの権利を守る視点を大切にし、子どもらしく健やかに成長・発達していけるよう支援しています。より良い療養生活が送れるよう、医療的ケア児の退院調整や退院・転院に向けた家族の意思決定支援をします。小児がん患者の学習支援・復学支援など、医療スタッフや地域関係機関と連携し調整しています。また、小児看護の質向上に向け、研究活動や院内外の教育活動を行っています。

継続的に子どもたちに関わるので、成長・発達を見守ることができ、家族も安心して療養生活が送れるよう支援できているときにやりがいを感じています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

対象患者さんは「さっきまで元気だったのに」という突然脳卒中を発症する超急性期から状態が安定してリハビリテーションを中心に行う回復期、自宅退院した後の生活期までと多岐にわたります。重症の場合は生死や麻痺などの後遺症を左右する異常の早期発見が看護の中心になり、抑うつやせん妄予防、失語症・失行などの高次脳機能障害や嚥下障害への介入、生活指導が中心になる場合もあります。どのような場合でも患者さんやご家族の思いに寄り添い、退院後の患者さんをイメージした上で専門的な看護を提供することを大切に、多職種連携で最善の医療の提供に努めています。

緩和ケア認定看護師

主治医の先生や病棟・外来看護師のみなさんと協働し、緩和ケアチームの専従看護師として活動しています。痛みをはじめとした身体的苦痛の緩和を図り、患者さん・ご家族の治療や生活における悩みや不安を共有し、一緒に考えることを大切にしています。主治医チームとの協働により、患者さんの苦痛が緩和され、今までできなかったことができるようになったり、笑顔が見られるようになった時にはやりがいを感じます。

認知症看護認定看護師

私は認知症看護認定看護師として、物忘れ相談や各部署からの症例相談に随時対応しています。患者さんの症状と生活歴・今の苦痛の状況などをアセスメントし、持っている力を最大限に生かしながら、できない所だけを援助する方法を見出します。そのケアが患者さんにマッチすると、落ち着いて笑顔で過ごせるようになります。安心できる環境に整えて、BPSDやせん妄を予防し、患者さんに笑顔が見られることがやりがいであり、活力となっています。

07 チーム医療
Team medical care

専門性の高いメディカルスタッフが連携・協働し、質の高い医療とケアを提供しています。

心臓リハビリテーション

心臓リハビリテーションの目的は、患者さんが心臓病発症により低下した体力を運動療法で回復させて自信を取り戻し、さらに病気の再発予防について学び実践していくための治療プログラムです。患者さん一人ひとりに応じた適切なプログラムを受けられるよう多職種間で連携し、運動療法だけでなく栄養指導や生活指導等を組み合わせ、生活習慣の改善について支援しています。入院中だけでなく、外来でも継続した支援を行っています。

栄養サポートチーム（NST）

NSTは、医師・看護師・薬剤師・栄養管理士・言語聴覚士など多職種で構成されています。毎週、チームカンファレンスや病棟巡回を行い、適切な栄養管理をサポートすることで患者さんの全身状態の改善や合併症の予防、早期回復を目指しています。看護師は、患者さんの日常の様子や嗜好など、日々の看護で得られた情報をカンファレンスで共有し、患者さんに会ったプランの作成を支援しています。

DMAT

当院は、災害拠点病院となっており、医師6名、看護師18名、業務調整員9名がDMAT資格を有しています。東日本大震災をはじめ、北海道胆振東部地震、令和6年は能登半島地震など現地へ出動し、医療支援を行ってきました。また、いつ起こるか分からない災害に備え、県内外の防災訓練にも参加しています。

08 病院概要
Hospital Guide

第二病棟

8F	放射線科 / 皮膚科 / 脳神経内科
7F	眼科 / 整形外科 / リハビリテーション科 / 救急科
6F	脳神経外科 / 形成外科 / SCU（脳卒中集中治療室）
5F	泌尿器科 / 歯科口腔外科
4F	耳鼻咽喉科頭頸部外科 / 歯科口腔外科 / 麻酔科 / 救急科
3F	産科婦人科 / 血液内科
2F	整形外科
1F	リハビリテーション部 / げんき図書館

高度救命救急センター

2F	救命救急病棟	1F	救命救急外来	B1F	特殊救急外来

中央診療棟

5F	手術部
4F	集中治療部(ICU) 強力化学療法室（ICTU） 血液浄化療法部
3F	周産母子センター(NICU GCU) 材料部
2F	検査部 / 中央採血室 / 検査室 / 病理部
1F	放射線部 / 放射線検査室
B1F	RI病棟 / MRI検査室
B2F	放射線治療室

単身寮（桜苑寮）

ワンルームタイプ（約23㎡）、冷暖房設備、個室バス·トイレ、キッチン、ベッド、クローゼット、食器棚付

病院内ショップ

外来診療棟 1F	第二病棟 1F
コーヒーショップ ドトール	コンビニエンスストア ローソン

診療科（35科）

消化器内科	呼吸器外科	麻酔科
呼吸器内科	甲状腺外科	集中治療科
感染症科	眼科	歯科口腔外科
小児科	産科婦人科	循環器内科
乳腺外科	小児外科	糖尿病代謝内科
泌尿器科	リハビリテーション科	神経科精神科
放射線診断科	膠原病内科	消化器外科
形成外科	内分泌内科	皮膚科
救急科	腫瘍内科	放射線治療科
血液内科	心臓血管外科	脳神経外科
腎臓内科	整形外科	病理診断科
脳神経内科	耳鼻咽喉科頭頸部外科	

ひろだい保育園

0歳から小学校就学前の乳幼児をお預かりしています。
保育は24時間体制。

入院棟東

8F	神経科精神科
7F	内分泌・糖尿病代謝内科 / 脳神経内科 / 消化器内科
6F	消化器・血液・膠原病内科 / 腫瘍内科
5F	呼吸器内科・感染症科 / 呼吸器外科 / 腎臓内科
4F	循環器内科 / 心臓血管外科
3F	小児科 / 小児外科 / 心臓血管外科（小児） / 形成外科（小児）
2F	消化器・乳腺・甲状腺外科
1F	光学医療診療部 / 栄養管理部

弘前大学医学部
附属病院看護部

Access アクセス

路線バス

JR 弘前駅前 6番のりば 約15分
バスターミナルバス 10番のりば 約20分

タクシー

JR 弘前駅より約10分

徒歩

弘南鉄道中央弘前駅より約10分

弘前大学医学部附属病院

お問い合わせ / 総務課 人事グループ 人事担当

TEL (0172)33-5111（代表）
〒036-8563 青森県弘前市本町53
https://www.med.hirosaki-u.ac.jp/hospital/